自立支援部だより

～みんなで考えよう　特別支援教育の専門性～

令和４年11月　　日　第３号
むこがわ特別支援学校

『授業を通しての支援』『個への支援』を考える

先日は兵庫教育大学の嶋崎まゆみ先生の来校日でした。小学部高学年の「音楽」の２グループの授業を見ていただきました。小高クラスの先生方が話し合い、嶋崎先生にアドバイスをいただきました。

話し合いに出た話題　　『授業を通しての支援』と『個への支援』

音楽（４クラスの子どもが、２つのグループで学習している）

（１）授業担当者より、授業の工夫について

・授業の流れやパターンは同じにして、教材が変わってもわかりやすくしている。
・今の季節「秋」を感じられるように、「あかとんぼ」の歌では、紙のとんぼを子ども達の指に着ける工夫をした（どの子も参加できる）
・少ない楽器の中で工夫をした。太鼓の代わりに段ボール箱と筒の利用。
・回を重ねることで、だんだんとわかってきた部分もあり、力がついてきているように思う。
・鑑賞曲は先生方からのおすすめの曲を鑑賞しているので、子ども達も興味を持って聞いている。

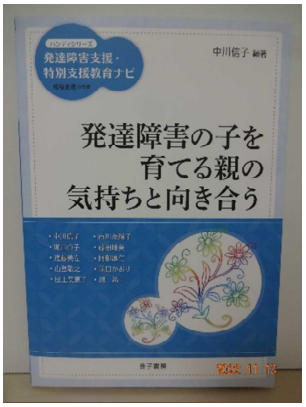
（２）嶋崎先生より

〇授業について

・授業の流れにメリハリがあり、子ども達にとってわかりやすい授業であった。
・コロナ渦で歌を歌いにくい中、歌を楽しむ工夫がされていた。
・大型テレビに画像が映し出されていて、みんな集中して見ていた。
・とんぼを手に持つ工夫もよかった。
・ダンスタイムは自由に動いてよいという流れでよかった。
・大型テレビの使い方の工夫があった。
　１時間の学習予定の確認があるのでスケジュールがわかりやすかった。
　終わると順に、予定の文字がゆかいな動きをして消えるのがよい。
　iPad は UD フォントがないので、見やすい字体を使うようにする。
・音量については最初大きかったが、子どもの様子をみて先生が調整していた。
・参加しにくい子どもの座る場所（端）や椅子の向き（外側）など工夫し、参加する時は楽しんで参加できていた。

〇個への支援について

・参加しにくい子どもは、子どもの実態に合わせて参加できるところは参加するという段階的な参加を大切に、教師間で共通理解する。保護者とも日頃からのコミュニケーションが必要。（授業における子どもの様子を伝え、保護者にも理解してもらう）
・子どもによっては、最初にすることを明確に伝え、活動中は声かけを少なくし、できているところは OK のフィードバックを伝える。
・子ども達に興味を持ってもらえる教材研究をしていくことが大切。

・パーテーションについては、卒業後の進路先でも使っている場合もあるが、今後はどのようにしていくのか考えていく。
安心するのでずっと使い続けていくのか、フェードアウトしていくために（L 字型、高さを下げていく、透ける素材にするなど）工夫もできる。
場所によってここでは使わないという場を設定していくのも良い。
・視覚支援のスケジュールのカードは、日によって順番を変えることでこだわりに柔軟性を持たせることもできる。
・注意引きに関しては、あえて反応せず見ないようにしていくのも一つの手。
・支援の仕方も先生方で、共有していく。OK サインの出し方など。
・音楽の授業中のシール貼りの内容は、とんぼの歌の時はとんぼの目の位置にシールを貼る、なぞり書きは、音楽の学習内容のなぞり書きをする、など学習内容に関係したことをする工夫もできる。

★本の紹介★
嶋崎先生に紹介していただいた本です。
授業づくりを考える上で役立つたくさんのアイデアが入った本です。①②③
保護者支援や保護者支援において大切なことを考えることができる本です。④⑤
①「特別支援教育における授業づくりのコツ」富山大学人間発達科学部付属特別支援学校著
②「特別支援教育のための　分かって動けて学び合う授業デザイン」
香川大学教育学部付属特別支援学校編著
③「絵で見てわかる！視覚支援のカード・教材 100」　青木高光、杉浦徹、竹内宗子著
④「Q&A で考える　保護者支援」　中川信子著
⑤「発達障害の子を育てる親の気持ちと向き合う」　中川信子編著